

ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況（2011年11月～12月）

気 象 庁



図 1. 2011年11月～12月に目立った活動があった火山

秋田駒ヶ岳 (39° 45′ 40″N, 140° 47′ 58″E)

仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある監視カメラ（東北地方整備局）では、12月14日に一時的に女岳から高さ50mの噴気を観測した。

12月13日に陸上自衛隊東北方面総監部の協力により実施した上空からの観測では、2011年10月までに確認されている女岳の山頂北部、北東斜面、北斜面、南東火口、北西斜面及び山頂付近の地熱域に対応する融雪域が確認された。融雪域や地表面温度分布から、新たな地熱域は認められなかった。

12月27日12時34分に女岳の西側2km付近を震源とするマグニチュード2.6の地震が発生し、仙北市田沢湖生保内上清水で震度1を観測した。この地震の発生後、一時的に地震回数が増加したが、その後は収まっている。この地震による火山活動の高まりを示す現象は観測されていない。

三宅島 (34° 05′ 37″N, 139° 31′ 34″E)

噴煙高度は火口縁上100～300mで経過した。

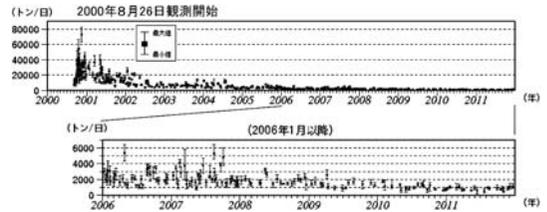


図 2. 三宅島 火山ガス（二酸化硫黄）放出量の変化（2000年8月26日～2011年12月31日）

島内で実施した、COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中4回実施）では、二酸化硫黄放出量は一日あたり500～1,100トンと、やや多量～多量の火山ガス放出が続いている。三宅島の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、少ない状態が続いている。

11月12日02時52分頃に振幅の小さな火山性微動（継続時間は約60秒）が発生したが、空振は観測されず、降灰も確認されなかった。

全磁力観測では、火山活動とみられる有意な変化は観測されなかった。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動が継続している。

硫黄島 (24° 45′ 02″N, 141° 17′ 21″E (摺鉢山))

11月16日から18日にかけて海上自衛隊の協力により実施した現地調査では、島西部の阿蘇台陥没孔で、前回（2011年1月29～30日）の観測時と比べて、孔内の水位が上昇していることを確認した。孔底の観測では、泥水の温度は前回（2011年1月）同様、約100℃と推定され、間欠的な熱水の噴出を確認した。孔内からの泥水の噴出に伴って立ち上る噴気の高さは、孔の上端から最大約20mであった。東山噴気・地熱地帯では、前回（2011年2月16日）同様、高温域を確認した。地表面から約10cmの表層地中温度を測定したところ約100℃と、前回と変化はなかった。なお、金剛岩、硫黄ヶ丘及び摺鉢山等、その他の地域では、噴気の状態及び地熱等の状況は、前回（2011年1月）の現地調査で確認された熱活動と特段の変化は認められなかった。

地震活動は2011年2月末頃から比較的活発な状態が続いている。

国土地理院のGPS観測結果では、2006年8月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2011年1月末頃から隆起速度が増加していたが、同年12月下旬頃から隆起傾向はやや鈍化している。また、島の南部で大きな南向きの変動がみられる。

福德岡ノ場 (24° 17.1' N, 141° 28.9' E)

11月16日に海上保安庁海洋情報部が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近の海面に変色水は確認されなかった。

11月17日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面に前回(2011年1月28日)確認された変色水は確認できなかった。また、前回同様、浮遊物も同海域において確認できなかった。

なお、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

霧島山(新燃岳) (31° 54' 34" N, 130° 53' 11" E (新燃岳))

新燃岳では、今期間、噴火は発生しなかった。白色の噴煙が火口縁上概ね100m(最高高度は500m)の高さで経過した。

11月8日、11月15日及び12月21日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊、12月9日、13日に航空自衛隊航空救難団芦屋救難隊の協力を得て実施した上空からの調査では、新燃岳火口内に蓄積された溶岩の大きさ(直径約600m)や形状及び周辺の噴気の状態に特段の変化はなく、主に溶岩の北側及び東側から、白色の噴煙が上がっているのを確認した。11月8日及び12月9日の調査では、2008年8月の噴火時に形成された西側斜面の割れ目から白色の噴煙が数m上がっていたが、11月15日、12月13日及び12月21日の調査では確認されなかった。地表面温度分布に大きな変化はなく、火口内に蓄積された溶岩の縁辺が比較的高温な状態であった。また、西側斜面の割れ目の一部にやや温度の高い部分が認められた。

火山性地震の月回数は、11月が800回、12月が966回でやや多い状態を経過した。震源はこれまでと同様に、主に新燃岳付近の海拔下0~2kmに分布した。

振幅のごく小さな火山性微動が11月に2回、12月に1回発生し、継続時間の月合計は11月、12月ともに1分であった。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中2回実施)では、二酸化硫黄放出量は一日あたり200~300トンと少ない状態であった。

国土地理院のGPS観測結果では、新燃岳の北西数kmの地下深くのマグマだまりへのマグマの供給を示す変化が続いている。なお、GPSの一部の基線ではこれまで見られていた伸びの傾向がやや鈍化している。

傾斜計では、火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。

桜島 (31° 34' 38" N, 130° 39' 32" E (南岳))

昭和火口では、爆発的噴火を含む噴火が11月は78回(そのうち爆発的噴火は57回)、12月は145回(そのうち爆発的噴火は125回)と活発な噴火活動が継続した。また、大きな噴石が3合目(昭和火口から1,300m~1,800m)まで達した爆発的噴火は、9回発生した。火砕流は、確認されなかった。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、12月11~13日にごく小規模な噴火が発生した。ごく小規模な噴火の発生は、2011年2月13日以来である。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中4回実施)では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり1,200~3,200トンと多い状態であった。

有村観測坑道の水管傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、2011年11月頃から山体がわずかに隆起する傾向が続いている。これは桜島直下へのマグマの供給量の増加によるものと考えられる。GPSによる地殻変動観測では、2011年初め頃から島内の基線長がわずかに縮む変化がみられたが、9月頃から伸びの傾向に転じている。また、国土地理院のGPS観測結果では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられる。

12月21日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊、12月27日に大隅河川国道事務所の協力を得て実施した上空からの調査では、昭和火口の火口内は、高温の噴煙が認められたが、噴煙のため火口底の状況は不明であった。火口の形状に特段の変化は認められなかった。地表面温度分布に特段の変化は無く、以前より観測されていた火口周辺部分の高温の領域が認められた。南岳山頂火口の火口底の状況は、噴煙のため不明であったが、火口内壁及び火口周辺では、形状や噴気の状態に特段の変化は認められなかった。地表面温度分布にも特段の変化は無く、以前より観測されていた山頂火口内のB火口付近の高温の領域が認められた。またその他火口内壁の噴気孔部分は高温な領域となっていた。

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した降灰量は、10月は50万トン、11月は36万トンであった。

薩摩硫黄島 (30° 47' 35" N, 130° 18' 19" E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過した。

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。

11月26日に実施した現地調査では、前回(2008年4月)と比較して、地表面温度分布に特段の変化は認められなかった。また、COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり800トンであった。

12月19日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、前回(2010年12月)と比べて、噴煙活動の状況及び地表面温度分布に特段の変化はなかった。また、周辺の海岸付近では、火山活動に伴うと考えられる海水の変色が引き続き確認された。

口永良部島 (30° 26' 36" N, 130° 13' 02" E)

11月30日頃から火山性地震のやや多い状態が続き、12月11日以降はさらに増加した。12月26日以降減少したが、引き続きやや多い状態である。震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布した。

火山性微動は12月9日までは時々発生していたが、その後は観測されていない。継続時間の月合計は11月が1時間4分、12月が26分であった。

遠望観測では、新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上300m以下の高さで経過した。

12月4日から7日にかけて現地調査を実施した。前回(2011年5月)と比較して新岳火口内、古岳火口内及びその周辺の地表面温度分布に特段の変化はなかった。

12月19日に、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て上空からの調査を実施した。新岳火口では、主に南側火口内壁から白色の噴煙が火口縁上100m程度上昇し、南東へ流れていた。南側火口内壁の噴気孔付近には硫黄の昇華物が付着していた。新岳火口の噴煙活動は、前回(2010年12月14日)と比べ特段の変化は認められなかった。地表面温度分布にも特段の変化は認められず、火口内の噴気孔に対応して熱異常域が認められた。また、火口縁の南側にも熱異常域が認められた。古岳火口内では、火口底から白色の噴気が高さ20m程度上昇していた。火口内の状況は、前回(2010年12月14日)と比べて特段の変化は認められなかった。

12月9日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり200トンと、火山活動が活発であった2008年12月頃と同程度でやや多い状態であった。

GPS連続観測では、新岳を挟む基線で2010年9月頃から伸びの傾向が続いていたが、2011年9月頃から鈍化

している。

12月4日から8日にかけて実施したGPS繰り返し観測では、2010年9月の観測と比較して、新岳火口直下ごく浅部の膨張を示す変動が認められた。

諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

御岳火口では、爆発的噴火は発生しなかったが、11月15日にごく小規模な噴火が発生した。十島村役場諏訪之瀬島出張所により、同日、御岳の南南西約4kmの集落で降灰が確認された。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

12月19日に、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、御岳火口底の中央部で高温域が認められた。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責：気象庁地震火山部火山課 岡垣晶子)

○人事公募

【独立行政法人海洋研究開発機構】

キャリア採用 任期制職員(支援職)

募集職種：平成24年度

【地球内部ダイナミクス領域 地球内部物質循環研究プログラム 地殻進化研究チーム】

研究技術専任スタッフ(1名)

募集対象部署：地球内部ダイナミクス領域 地球内部物質循環研究プログラム 地殻進化研究チーム

業務内容：調査航海、偏光顕微鏡を用いた岩石学的記載、蛍光X線分析装置(XRF)を用いた全岩分析、電子線プローブマイクロアナライザー(EPMA)を用いた鉍物分析などへの支援業務を行う。

※研究技術専任スタッフは科研費等競争的研究資金への応募資格はありません。

応募資格：岩石学の素養があり、偏光顕微鏡、蛍光X線分析装置(XRF)、電子線プローブマイクロアナライザー(EPMA)を用いた作業ができる。

4年制大学学部卒と同程度の、研究分野に関する専門知識及び技能を要する定型的な職務

又は、上記の専門知識及び技能に加えて5年未満の実務経験を要する定型的な職務。

※国籍・性別・年齢を問いません。

※海洋研究開発機構では、全ての職員の雇用に関し男女平等の理念を持っております。

勤務地：海洋研究開発機構 横須賀本部
神奈川県横須賀市夏島町 2-15

採用形態：【募集人数】1名

【雇用形態】任期制職員

【雇用期間】平成24年4月1日～平成27年
3月31日（3事業年度）

※着任日は応相談

契約期間は平成24年4月1日から平成27年3月31日まで。更新は研究課題の進捗状況と勤務実績等により1回までとし、最長雇用継続期間は平成30年3月31日までとします。

給 与：年俸制（1/12を月々支給）
年俸350～375万円（参考）
賞与、退職金なし

※最終的には経験・能力などを考慮の上、当機構規程により決定します。

福利厚生・通勤手当支給

- ・職員等の相互扶助及び福利厚生の増進を図るための共济会制度有り
- ・各種保険，社会保険完備（科学技術健康保険組合，科学技術厚生年金等）
- ・休日及び休暇 土日祝祭日・年末年始・年次有給休暇・特別有給休暇・介護休業・育児休業等

応募方法：

応募書類：ア. 履歴書 1通
（連絡先E-mailアドレス記載のこと。）
イ. 職務経歴書 1通

提出方法：郵送による。

注）郵送以外は受け付けません。

提出先：〒237-0061 横須賀市夏島町2番地15
独立行政法人海洋研究開発機構
研究支援部支援第1課 人事担当 庵原宛
（封筒の表に「IFREE 地球内部物質循環P
研究技術専任スタッフ応募」と朱書きのこと）
詳細はこちらをご覧ください：<http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/ifree20111226.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月24日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 募集職種：技術職員（2名）
2. 勤務場所：東京都文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所
3. 職務内容：本件で求める技術職員の職務内容は下記の通りです。

- ・地震観測などを主とする地球物理観測
- ・得した観測データの基本的な処理および解析
- ・震記録アーカイブの構築と公開
- ・測器機等の管理

4. 応募資格：

4年制大学理工系学部卒業以上で、観測・計測あるいは計測機器開発に関連する、少なくとも2年程度以上の職務経験を有すること。

ただし、大学院等における研究歴は資格要件の職務経験に含みます。

平成24年3月修士課程修了見込みの方も応募できます。

5. 応募期限：平成24年1月6日（金）正午 必着

6. 採用予定時期：平成24年4月1日

7. 応募書類（書式自由）：

- 1) 履歴書
- 2) 小論文（本公募に応募した理由2,000字以内）
- 3) 職務経歴書（経歴ごとに企業や大学院等の職務・研究内容を具体的に記述）

* 連絡に使用しますので、メールアドレスを必ず記入してください。

8. 書類提出先：

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所 庶務チーム（人事）

電話：03-5841-5668 E-mail：jinji@eri.u-tokyo.ac.jp

応募書類は封筒に【技術職員応募】と朱書きし、書類提出先まで送付して下さい。

原則として、応募書類は返却いたしませんので、予めご了承ください。

9. 選考方法等：

小論文及び職務経歴書等にもとづく書類選考、及び面接選考により決定します。

第一次面接試験日時等は書類選考後に通知します。

- 1) 第一次面接試験：1月14日（土）
- 2) 第二次面接試験：1月23日（月）～27日（金）の間の一日

※適任者がいない場合、決定を保留します。

10. 勤務条件等

東京大学 HP「職員採用情報」の『勤務条件・給与』を参照。

URL：<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/per/per1/saiyohp/>

11. 本件に関する問い合わせ先：

東京大学地震研究所 教授 佐藤比呂志

電話 03-5841-5737 e-mail：satow@eri.u-tokyo.ac.jp

詳しくは WEB をご覧ください。

http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/recruit/H23/Koubo_Kansoku2011

pdf

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 5 日送信しました)

【京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設】

1. 職種及び人数 技術職員 1 名
2. 勤務場所
大分県別府市野口原
京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設(別府本部)
3. 職務内容
 - (1) 地球熱学研究施設における設備や機器の維持・管理・運用, 観測・分析業務
 - (2) 地球熱学研究施設が行う学生実習等の教育活動における技術指導
 - (3) 地球熱学研究施設における運営・安全衛生管理に関わる業務の補佐

4. 応募の条件

- (1) 大学院修士課程修了もしくは同等以上の方.
- (2) 分析化学の基礎的な知識と化学分析の基本技術を有し, 2 年以上何らかの機器分析に従事した経験のある方.
- (3) 地球熱学研究施設が行う研究および教育に関心を持って観測調査や研究の補助に意欲的に取り組むことができる方. また, 野外調査等で出張が可能な方.
- (4) 普通自動車運転免許を有すること.
- (5) 研究分野の枠を超えた技術交流に意欲的な方.

5. 給与

本学給与規程による

6. 採用年月日 平成 24 年 4 月 1 日

7. 応募書類

- (1) 履歴書 (写真添付)
 - * 連絡に使用しますのでメールアドレスを必ず記入してください
- (2) 大学院等での研究や職務内容の説明 (2000 字以内)
- (3) 本公募に応募する理由・抱負 (2000 字以内)
- (4) 技術等の資格を証明するもの (コピー可)

以上を下記に郵送すること

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院理学研究科総務・学務室職員掛

提出書類は, 封筒に「地球熱学研究施設(別府)技術職員応募書類在中」と朱書きし, 簡易書留等受け取りが確認できる方法にて郵送下さい.

なお, 応募書類は返却できませんので, あらかじめご了承ください.

8. 応募期限

平成 24 年 1 月 6 日 (金曜日) 17 時 00 分必着

9. 選考方法

書類選考合格者について下記二次試験を行います
二次試験: 平成 24 年 1 月 26 日 (木曜日) (予定)
教養試験及び各種分析・観測機器に関する専門試験, 面接及び実技試験
実施場所は, 京都大学大学院理学研究科
住所: 京都市左京区北白川追分町
詳細は書類選考合格者に連絡します

10. 問い合わせ先

京都大学大学院理学研究科総務・学務室職員掛
TEL: 075-753-3605
e-mail: shokuin@office.sci.kyoto-u.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 6 日送信しました)

【山梨大学教育人間科学部理科教育講座】

1. 採用予定職種・人員 教授または准教授 1 名
2. 所属 理科教育講座
3. 専門分野 地学(下記の講義・実験等を担当できる方)
4. 担当職務 担当授業科目: (学部)「地学一般」, 「野外地学実習」, 「理科内容論」, 「地学セミナー」, 「地学実験」, 「環境地学実験」, その他「共通科目」など.
学校教育課程・教科教育コース・理科教育専修とソフトサイエンス課程・環境科学コースの学生の卒業論文指導.
(大学院)「地学特論」, 「地学特論演習」その他.
修士課程・教科教育専攻・科学文化コースの学生の修士論文指導.

5. 応募資格

- (1) 地学または関連分野の博士の学位を有すること.
- (2) 大学・研究機関などにおける教育研究経験を有する方が望ましい.
- (3) 当学部は将来教員になる学生の育成を目指しているため, 教育(教員養成)に関心と熱意のある方.

6. 採用予定年月日 平成 24 年 9 月 1 日

7. 提出書類

- (1) 履歴書: 書式は A4 横書き写真付とし, 学歴, 職歴, 研究歴, 受賞歴, 科研費・外部資金等受け入れ実績, 学会および社会における活動, 連絡方法(電話・E メールアドレス) などを含むこと.
- (2) 研究業績一覧表: 著書・学術論文・その他・学会等の口頭発表という区分を設け, それぞれ執筆の年代順に記載する. なお, 学術論文の内, 審査

付学術論文は業績番号を○で囲むこと。

- (3) 主要な著書および学術論文のコピー（5編まで）、およびその概要（400字以内）各1部
- (4) これまでの研究・教育、学会活動などの概要（2,000字程度）
- (5) 着任後の研究計画・教育活動についての抱負（2,000字程度）
- (6) 当方から意見を求めることができる方2名の氏名・所属・職名・連絡先（住所、電話、Eメールアドレスなど）を示す書面

なお、応募書類は、特別に返却を必要とする理由がある場合を除いては、返却いたしません。

8. 応募締切日 平成24年2月29日必着

9. 選考方法

第1次：書類審査

提出書類の他に追加資料の提出を求められます。

第2次：面接審査

面接は、書類審査を通過した方のみを実施し、詳細については対象の方に事前に連絡いたします。

また、面接時に模擬授業を行っていただく場合があります。

10. 提出先 〒400-8510 山梨県甲府市武田4丁目4-37
山梨大学教育人間科学部長宛

書留郵便とし、封筒表に「理科教育講座教員応募書類在中」と朱書して下さい。

11. 問い合わせ先

- (1) 公募内容に関する事項 山梨大学教育人間科学部 理科教育講座教授 宮崎淳一
TEL：055-220-8149
E-mail：miyazaki@yamanashi.ac.jp
- (2) 給与、諸手当等の事務的事項 山梨大学教育人間科学部支援課補佐 佐野秀昭
TEL：055-220-8102
E-mail：sano3@yamanashi.ac.jp

12. その他

- (1) 面接に際しての旅費等は応募者本人の負担となります。
- (2) 本学就任後は甲府市およびその隣接地域に居住していただくことを原則とします。
- (3) 大学の組織（学校教育課程・教科教育コース・理科教育専修とソフトサイエンス課程・環境科学コースや修士課程・教科教育専攻・科学文化コースなど）については、山梨大学ホームページ <http://www.yamanashi.ac.jp/> を参照して下さい。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月

14日送信しました）

【独立行政法人防災科学技術研究所】

所 属：観測・予測研究領域 地震・火山防災研究ユニット

研究(業務)課題：海底地震津波観測網整備事業

採用人数：1名

任 期：平成24年3月1日から平成27年2月28日

勤 務 地：つくば本所 茨城県つくば市天王台3-1

応募期限：平成24年1月13日（金）

※その他詳細は下記URLより「採用情報」をご参照ください。

参照URL：<http://www.bosai.go.jp/>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月22日送信しました）

【京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設】

募集人員：1名

研究分野：本施設の研究者と協力して、施設が行っている研究分野あるいは、その関連分野における研究を進展させると共に、地球熱学の新しい領域を開拓する意欲的な方を歓迎する。現在、本施設に所属している研究者やその研究分野等の詳細については、HP等 (<http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp>) を参照のこと。

なお、応募にあたっては、本施設の教員と必ず事前に連絡を取り、研究計画について相談すること。

連絡をとる適任者が見いだせない場合は、施設長 (kagiyama@aso.vgs.kyoto-u.ac.jp) と相談すること。

応募資格：着任の時点で、博士学位を有すること。

勤 務 地：地球熱学研究施設（大分県別府市）又は火山研究センター（熊本県阿蘇郡）

着任時期：平成24年4月1日以降の出来る限り早い時期。

採用予定期間：原則として採用日より2年間（3年まで更新可）

待 遇 等：(1) 身分：研究員（研究機関）

(2) 給与：月額約30万円

(3) 週19時間勤務，交通費支給，有給休暇あり

応募期限：平成24年2月8日（水）

応募書類：

1. 履歴書 氏名，生年月日，住所，連絡先（電話およびe-mailも記載）

学歴 高校入学以降の入学年月日，卒業年月日

職歴
資格
賞罰 学会賞など

2. 業績目録 査読論文, 査読なし論文, 学会発表など
(博士号(題目, 取得大学, 時期も記載))
3. 研究の概要および今後の研究の抱負(各 A4, 1 枚程度)
4. 主要論文 3 編以内
応募方法: 上記書類を PDF ファイル(1, 2, 3 は同一ファイル)で下記応募先に送付すること.
e-mail kagiyama@aso.vgs.kyoto-u.ac.jp
問い合わせ先:
〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 5280
京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター 鍵山恒臣
電話 0967-67-0022 (阿蘇) 075-753-3938 (京都分室)
e-mail kagiyama@aso.vgs.kyoto-u.ac.jp
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 22 日送信しました)

【独立行政法人産業技術研究所】

(締切: 平成 24 年 4 月 13 日)
公募課題名: 火山噴煙観測に基づく火山活動推移評価手法の開発
配属予定ユニット: 地質情報研究部門
採用制度: 博士型任期付研究職員
採用予定時期: 平成 25 年 4 月 1 日
任 期: 5 年(平成 30 年 3 月 31 日まで)
概 要: 火山防災に資する短期的噴火予知および噴火推移予測技術の高度化のため, 火山噴煙の物質科学的研究および噴火・脱ガス過程研究を実施できる研究者を募集する.
公募番号: 地質情報-4
関連情報: <http://unit.aist.go.jp/igg/jp/index.html>
http://www.aist.go.jp/aist_j/humanres/02kenkyu/boshu2401.html
問い合わせ: 篠原宏志
e-mail: igg-saiyo24@m.aist.go.jp
FAX: 029-861-3742
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 12 日送信しました)

○地球化学研究協会「公開講座」のお知らせ

【地球化学研究協会】

12 月 3 日第 48 回の霞ヶ関環境講座を, 続いて第 39 回の三宅賞受賞者の受賞記念講演を予定しています.

講座「レアアース(希土類)資源: その実態と将来」
浦辺徹郎先生(東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教授)

受賞記念講演「分析電子顕微鏡および実験的手法による始原的隕石の形成・進化の研究」

三宅賞受賞者 留岡和重博士(神戸大学大学院理学研究科 教授)

日 時: 2011 年 12 月 3 日(土) 14:30~

場 所: 霞ヶ関ビル 35 階東海大学校友会館(地下鉄銀座線虎ノ門・千代田線霞ヶ関, 下車)

参加費: 賛助会員および学生は無料, 一般 1,000 円(資料代を含む), 懇親会へも参加できます.

当日も受け付けますが, 参加人数把握のため t-sagi@ma3.gyao.ne.jp までお知らせ下さると幸いです.

地球化学研究協会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/gra/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 24 日送信しました)

○高校生のための先進的科学技术体験合宿プログラム

「スプリング・サイエンスキャンプ 2012」参加者募集
開 催 日: 2012 年 3 月 17 日~3 月 29 日の期間中の 2 泊

3 日~3 泊 4 日

対 象: 高等学校, 中等教育学校後期課程または専門学校(1~3 学年)

会 場: 大学, 公的研究機関, 民間企業等(18 会場)

定 員: 受け入れ会場ごとに 8~40 名(計 283 名)

※前年度平均応募倍率 2.5 倍

参 加 費: 無料(自宅と会場間の往復交通費は自己負担, 宿舎・食事は用意します)

応募締切: 2012 年 1 月 24 日(火) 郵送必着

主 催: 独立行政法人科学技術振興機構

共 催: 受入実施機関

応募方法: Web より募集要項・参加申込書を入手し, 必要事項を記入の上事務局宛郵送

URL: <http://ppd.jsf.or.jp/camp/>

応募・問い合わせ先: サイエンスキャンプ本部事務局

(公財) 日本科学技術振興財団振興事業部内

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 9 日送信しました)

○IAVCEI 学術総会セッション提案メ切迫る

火山学会員の皆様

2013 年 7 月に鹿児島市で開催される IAVCEI 2013 学術総会のセッション提案メ切が年末と迫っています. 日本の火山研究特有のセッションや日本がリードすべき

セッションがあると思いますのでふるって申し込み下さい。

セッションの採択や最終的に募集するセッションについては Science Committee で検討されます。

これまでに提案されているセッションは会議のホームページ(下参照)の session proposal で見ることができます。

The main theme : Forecasting volcanic activity : reading and translating the messages of nature for society.

Submission should contain the following items.

1. Name of the proposed session.
2. Names of conveners with affiliations and email addresses. The leader should be marked.
3. The content of the proposed session (< 300 words). Should include brief overview and significance of the proposed session, and fields of the expecting contributors.
4. Names of potential keynote speakers with affiliations.
5. Special consideration needed by the scientific committee, if any.

Please send the proposal to Setsuya Nakada (nakada@eri.u-tokyo.ac.jp) till 31 December 2011.

IAVCEI 2013 Science Committee : Patrick Allard, Ray Cas, Kathy Cashman, Agust Gudmundsson, Jennie Gilbert, Jun'ichi Kimura, Joan Marti, Steve McNutt, Setsuya Nakada (chair), Paolo Papale, Steve Sparks

Important data :

Session proposal deadline : 31 December 2011 Second circular : September 2012

Abstract deadline : January 2013

Conference : 20-24 July 2013

Web site of IAVCEI 2013 : <http://www.iavcei2013.com>

IAVCEI 2013 実行委員会学術部会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 21 日送信しました)

○地球惑星科学連合大会 2012 国際セッション

「100 Years of Geomagnetic Observations at KAKIOKA — Contributions to Centennial Progress of Geophysics」

(柿岡の地磁気観測百年—地球物理学に果たす役割—)

今回開催するセッションでは、柿岡における百年間の地磁気観測とその成果を振り返り、地上における地球磁場観測が果たすべき役割について議論します。長期間の安定した地上磁場データが地球電磁気学百年間の発展へどのように貢献してきたか、今後期待される役割はなにか、と言った論点について討議し、次の百年に向けて地上磁場観測の将来はどうあるべきかを発信する場にしたと考えています。

本セッションでは以下の方々の招待講演を予定しております。

Jeffrey Love (U.S. Geological Survey, USA)

Mandea Mioara (IAGA Secretary General)

Jean Rasson (Institut Royal Meteorologique de Belgique, Belgium)

歌田久司 (東京大学地震研究所)

湯元清文 (九州大学宙空環境研究センター)

発表申し込みは平成 24 年 1 月 11 日 (水) から、

2 月 3 日 投稿早期締切 (~24 : 00)

2 月 17 日 投稿最終締切 (~12 : 00) となっております。

地球惑星科学連合大会 2012 の詳細については、

<http://www.jpogu.org/meeting/>

をご覧ください。

多くの方々からの発表申し込みをお待ちしています。

代表コンビーナ : 源 泰拓 (気象庁地磁気観測所)

minamoto AT kakioka-jma.go.jp.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 28 日送信しました)

○ワークショップ開催のご案内 (再送)

ポスター発表の締め切りが 1 月 20 日となりますので再度のご連絡です。

「第 1 回アジア太平洋大規模地震・火山噴火リスク対策ワークショップ」

The 1st Workshop of Asia-Pacific Region Global Earthquake and Volcanic Eruption Risk Management (G-EVER1)

日 時 : 2012 年 2 月 22 日 (水) ~ 25 日 (土)

開催場所 : 産業技術総合研究所つくば中央共用講堂

主 催 : 産業技術総合研究所地質調査総合センター

後援予定 : 経済産業省, 文部科学省, 外務省, 気象庁, 国土地理院, 防災科学技術研究所, 建築研究所, 東京大学地震研究所, 京都大学防災研究所, 米国地質調査所 (USGS), ヨーロッパ地質調査所連合 (EuroGeoSurveys), ニューゼaland地質核科学研究所 (GNS Science), アジア防災センター (ADRC), 東・東南アジア地球科学計画調整委員会 (CCOP), 環太平洋評議会 (CPC), グローバル地震モデル (GEM), 日本地質学会, 日本地震学会, 日本火山学会, 日本第四紀学会, 日本活断層学会ポスター発表の締切は 1 月 20 日 (金) です。ふるってご参加頂ければ幸いです。

<http://www.gsj.jp/Event/AsiaPacific/>

口頭発表の暫定プログラムは下記の通りです。

<http://www.gsj.jp/Event/AsiaPacific/G-EVER1>

_tentativeprogram_20111228.pdf

問い合わせ先:

産総研地質分野研究企画室, 電話: 029-861-3635,
電子メール: G-EVER1@m.aist.go.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月4日送信しました)

○ジオパーク国際会議講演申込締切迫る

日本火山学会員の皆様

今年5月12~16日の日程で, 当学会が後援している「第5回ジオパーク国際ユネスコ会議(GEOPARKS 2012)」が島原半島ジオパークで開催されます。

<http://www.geoparks2012.com/>

この発表申込締切が来週1月9日と迫ってきました。

発表申込は, 英文360文字以内のアブストラクトを添えて <http://www.geoparks2012.com/abstract/index.html> で電子申請できます。

火山国日本においては, ジオパークの多くが火山と切り離せないものとなっており, 最近の火山学会でもジオパークと防災・教育のセッションで活発な発表・討論が行われています。

多くの火山学会員が今回の国際大会に参加され, 日本からの積極的な情報発信を行なうとともに, 世界のジオパーク活動を体感して, 日本での活動にフィードバックしていただくことを期待しています。

なお, 早期参加登録は2月4日が締切です。

<http://www.geoparks2012.com/registration/index.html>

GEOPARKS 2012 実行委員会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月6日送信しました)

○「有人月探査を見据えた科学・利用ミッション ワークショップ」

開催日: 2012年3月8日(木) 午前9時50分~

会場: 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

宇宙科学研究所 A棟2階 大会議場

主催: 宇宙航空研究開発機構 月・惑星探査プログラムグループ (JSPEC) /SE室 / 有人月拠点システムチーム

共催: 宇宙理学委員会

参加登録: 当日受付 (参加費: 無料)

その他詳細: <http://www.soc.nii.ac.jp/kazan/doc/jaxa.pdf>

問い合わせ先: 下記

佐藤直樹

宇宙航空研究開発機構

有人宇宙環境利用ミッション本部

システムズエンジニアリング室

TEL 050-3362-2882 FAX 029-868-3950

e-mail: satoh.naoki1@jaxa.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月19日送信しました)

○地球惑星科学連合大会 2012・火山学会共催セッション
固体地球科学複合領域・一般 (CG)

S-CG04

タイトル: Creation and Destruction of Continental Crust by Plate Tectonics

コンピーナ: 田村芳彦 海洋研究開発機構 地球内部ダイナミクス領域 tamuray@jamstec.go.jp;
Robert J. Stern テキサス大学ダラス校; 巽好幸 海洋研究開発機構 地球内部ダイナミクス領域

Continental crust today is mostly generated by arc magmatism above subduction zones, but also at hot-spots and rifts. Today, there are approximately 7 billion cubic kilometers of continental crust (Cogley, 1984) and it is often assumed that continental crust volume has been growing over Earth history. However, it is clear from truncations of ancient orogenic belts and the presence of > 4.0 Ga zircons that much Precambrian continental crust has been destroyed, mostly by tectonic erosion at subduction zones. Moreover, lower crust foundering and decratonization might also be important destroyers of continental crust. At present, creation and destruction of continental crust is either in balance or more crust is being destroyed than created; the uncertainty comes from unknown deep losses of continental crust at collision zones and due to lower crustal foundering. This session seeks to understand how continental crust is produced and destroyed today and the recent geologic past? We ask this question to a broad range of geologists, geophysicists, geochemists and petrologists who are interested in crustal evolution.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月12日送信しました)

○地球惑星科学連合大会のお知らせ

日本火山学会会員の皆様

日本火山学会大会委員会

地球惑星科学連合2012年大会 (5/20-25, 幕張メッセ) では, 火山学会が提案母体となっているセッションが以下の通り, 多数開催されます。皆様の積極的な発表を期

待しています。

予稿投稿期限は

早期投稿締切：2/3（金）24：00

最終投稿締切：2/17（金）12：00

となっています。

<http://www.jpгу.org/meeting/submission.html>

より投稿してください。

なお、今大会ではポスター発表を希望する場合、ポスター会場でのポスター掲示説明の他に、口頭発表会場での3分間の概要説明も実施することができます。概要説明にはプロジェクトを使用可能ですが、質疑応答はできません。予稿原稿投稿基本情報画面の5番目に、「口頭発表を行う」か「口頭発表を辞退する」かの選択枝がありますので、そこで口頭発表の有無を選択してください。

日本火山学会が提案母体となっているセッションの一覧

■固体地球科学 (S) 火山学

● S-VC49 火山の熱水系

コンピーナ：藤光康宏・鍵山恒臣・篠原宏志

マグマと地表との間には、異なる地学環境の中で、多様な熱水系が生じている。熱水系の理解は地球システムの理解に寄与するとともに、地熱エネルギー利用或いは火山噴火予知においても欠かすことはできない。本セッションでは火山の熱水系に関して、地球物理・地球化学・地質学・貯留層工学的立場からの地下構造及び熱と流体の流れに関する議論を集中的に行う。理論・観測・実験いずれの立場からの研究も歓迎する。

● S-VC50 活動的火山

コンピーナ：青木陽介・市原美恵

活動的火山の噴火や火山活動に伴う諸現象、火山体構造、災害予測やその軽減などについて各種地球物理・地球化学観測・地質学的調査などに基づき学際的立場で議論する。歴史噴火や各種観測技術の開発に関する話題も歓迎する。

● S-VC51 リアルタイム火山災害予測ー基盤整備から開発まで

コンピーナ：萬年一剛・宝田晋治・佐々木寿・藤田英輔

火山噴火の発生を予知することは計器の整備によりある程度可能になってきているが、噴火の様式を予想することは難しい。従って防災の観点からは、噴火の進行とともに直近の未来を予想し避難行動に役立てる「リアルタイム火山災害予測」の実現が強く望まれる。この実現には、火山の地形、過去の噴火実績などのデータベース作成と運用技術、噴煙・溶岩流・火砕流・岩屑なだれ・土石流等のシミュレーション技術、それらの結果を住民や行政の判断に資する形に加工する表現技術や、その

バックグラウンドとなる社会学的・心理学的研究など、広範囲にわたる技術基盤と知識の整備と共有が必要である。本セッションでは、こうした広範な技術および知識基盤のレビューおよび、個々の技術の理論、開発、適用事例に関する発表を広く募り、リアルタイム火山災害予測の実現に向けた取り組みを加速することをねらいとする。本セッションではその他、関連する純火山学的な研究や、具体的な火山災害事例に関する発表も歓迎する。

● S-VC52 火山とテクトニクス

コンピーナ：下司信夫・三浦大助・西村卓也・古川竜太

さまざまな時間・空間スケールの火山・マグマ活動のメカニズムを、火山体やその基盤をなす地殻におけるテクトニクスの観点から幅広く議論する。地球物理学、物質科学、地質学的な手法を融合し、火山活動とテクトニクスの相互関係の理解を深めることを目標とする。

主な対象は、火山の深部構造、マグマ溜まりや様々な規模の貫入岩体の形成メカニズムやその安定・不安定性、ダイクの成長・定置過程、近接する地震と火山噴火の関連性、カルデラ形成を伴う巨大噴火の準備過程や噴火プロセスなどを予定しているが、そのほか陸上・海底・地球外惑星など幅広い火山とテクトニクスに関する議論も歓迎する。地球物理学、物質科学、地質学といった分野間の融合を意識した発表を歓迎する。

● S-VC53 火山・火成活動とその長期予測

コンピーナ：及川輝樹・三浦大助・石塚吉浩・下司信夫

マグマ発生から移動・蓄積、マントルや地殻との相互作用、脱ガス、噴火様式、火山活動の長期予測、噴出物の運搬・定置過程など、マグマの挙動の各過程に関する話題を議論する。

また、噴火の確率論的な研究、短・長期的な火山・火成活動史、マグマの物性や各種技術の開発に関する話題も対象とする。

● S-VC54 火山噴火のダイナミクスと素過程

コンピーナ：小園誠史・鈴木雄治郎・奥村 聡

火山・火成活動現象とそれらを支配する微視的な現象を統一的に理解するための試みについて議論する。噴火の準備過程、マグマ上昇過程、噴出物挙動などのダイナミクスと素過程の基礎研究や、現象の階層を横断して理解するための手法開発についても議論したい。研究手法は問わず観測・実験・数値計算などの幅広い分野からの発表、また火山・火成活動現象の理解において重要な分野横断型研究の発表も歓迎する。

■固体地球科学 (S) 複合領域・一般セッション

● S-CG04 Creation and Destruction of Continental Crust by Plate Tectonics (大陸地殻の生成と破壊)

コンピーナ：田村芳彦・ロバート スターン・巽 好幸

Continental crust today is mostly generated by arc magmatism above subduction zones, but also at hot-spots and rifts. Today, there are approximately 7 billion cubic kilometers of continental crust (Cogley, 1984) and it is often assumed that continental crust volume has been growing over Earth history. However, it is clear from truncations of ancient orogenic belts and the presence of > 4.0 Ga zircons that much Precambrian continental crust has been destroyed, mostly by tectonic erosion at subduction zones. Moreover, lower crust foundering and decratonization might also be important destroyers of continental crust. At present, creation and destruction of continental crust is either in balance or more crust is being destroyed than created; the uncertainty comes from unknown deep losses of continental crust at collision zones and due to lower crustal foundering. This session seeks to understand how continental crust is produced and destroyed today and the recent geologic past? We ask this question to a broad range of geologists, geophysicists, geochemists and petrologists who are interested in crustal evolution.

■地球人間圏科学 (H) 社会地球科学・社会都市システム
 ●H-SC24 人間環境と災害リスク人間環境と災害リスク
 コンビナー: 鈴木康弘・小荒井衛・須貝俊彦・宇根 寛・中村洋一・長坂俊成・松本 淳

自然と人間が織りなす多様な環境の中に内在し、時に顕在化する災害リスクを、自然科学、人文・社会科学等の視点から多角的に検証する。東日本大震災で明らかになった災害予測の不確実性や低頻度巨大災害の問題や、ハザードマップの作成・利用法の改善、環境変動・社会変容や持続性を考慮した復興計画・国土計画、防災に関する国際協力、活断層や液状化の諸問題、地域特性に応じた減災計画、防災支援の技術開発など、総合的に議論する。

■領域外・複数領域 (M)

●M-IS25 津波堆積物 津波堆積物

コンビナー: 後藤和久・宍倉正展・西村裕一

2011年東北地方太平洋沖地震・津波以降、津波堆積物を用いた低頻度巨大津波のリスク評価に関する研究の社会的重要性が高まっている。しかし、津波堆積物研究は発展途上の分野であり、認定基準やその活用方法は確立されたものではない。本セッションは、地震やその他の要因で発生した津波に伴い形成された陸上および海洋底堆積物を適切に認定し、今後の津波防災対策に生かすための議論の場とすることを旨とする。

●M-IS32 ジオパーク

コンビナー: 目代邦康・渡辺真人・林信太郎・有馬貴之
 ジオパークにおける科学的な活動を深化させるため、

基礎となる地球惑星科学的遺産の評価や、その保全方策の検討、また地域活性化の方策、あるいは行政や教育との連携、情報の発信方法など、ジオパークに関わる諸分野について議論したい。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月23日送信しました)

○平成24年度日本火山学会賞および日本火山学会研究奨励賞候補者の公募

特定非営利活動法人日本火山学会

会長 中田節也

特定非営利活動法人日本火山学会では、平成24年度日本火山学会賞・同研究奨励賞候補者の推薦を以下の要領で公募しますので、ふるって応募下さい。

なお、日本火山学会論文賞については公募をしません。表彰事業の内容

1. 日本火山学会研究奨励賞 (Young Scientist Award): 火山学に関する優れた論文を発表し、将来、火山学の発展への貢献が期待される本学会員で、平成24年4月1日で35歳以下の者。(今回の公募対象)
2. 日本火山学会賞 (Volcanological Society Award): 日本の火山学の発展に特段の貢献のあった個人または団体。非会員でも対象になります。(今回の公募対象)
3. 日本火山学会論文賞 (Best Paper Award): 雑誌「火山」あるいは「Earth, Planets and Space」に掲載された論文中、火山学に関する独創的で特に優れた論文の著者。平成24年度の対象論文は前3年(2009-2011年)に出版されたものとします。(公募はしません)

推薦方法

- ・自薦・他薦を問いません。
- ・推薦者は非会員であっても構いません。
- ・下記の「推薦に必要な提出資料」を学会事務局までお送り下さい。

選考方法と受賞

- ・各賞選考委員会が上記3賞受賞候補者の選考を行い、理事会において決定します。
- ・本年5月に開催される総会(日本地球惑星科学連合2012年大会)において承認された後、賞状の授与を行います。
- ・日本火山学会賞受賞者には秋季大会で記念講演を行って頂きます。また、日本火山学会賞と同研究奨励賞受賞者には、それぞれ、受賞対象となった研究課題に関連する論文(レビュー論文)の「火山」への投稿をお願いいたします。

推薦の締め切り

平成24年3月16日(金)必着

推薦に必要な提出資料

以下のうち、1を電子メールの添付ファイル（MSWordかテキストファイル）として火山学会事務所へ送信下さい。また、2がある場合は郵送あるいはpdfファイル等を電子メールに添付して下さい。電子メールで送る場合は、必ずsubjectに「学会賞申請」あるいは「研究奨励賞申請」と明記して下さい。郵送の場合は、封筒の表に同様に朱書きして下さい。

1. 申請書類（様式は自由であるが、必ず以下の項目を含むこと）

推薦対象の賞名（学会賞か研究奨励賞かのいずれかを記述）

被推薦者氏名、生年月日、所属、連絡先、電子メールアドレス。団体の場合は、団体名、連絡先、代表者名とその連絡先などを記述のこと。

被推薦者の学歴、職歴、研究歴。団体の場合は活動歴。推薦者氏名、所属、連絡先、電子メールアドレス、被推薦者との関係。自薦の場合は、本人の研究活動を熟知する照会者の氏名、所属、連絡先、電子メールアドレス（推薦者や照会者は複数であっても構わない）。

受賞対象となる研究課題名（40字以内）

推薦理由

- ・ 1000字以内で簡潔に推薦の理由、特に、被推薦者（あるいは団体）の研究活動の火山学における重要性（もしくは評価されるべき点）をできるだけ具体的に記述のこと。
- ・ 研究奨励賞においては、対象となる論文（複数可）も明記すること。
- ・ 学会賞においては、被推薦者（あるいは団体）の活動に関して、日本の火山学の発展への貢献度や社会的な位置づけについても簡潔に記述すること。

主要な業績のリスト

- ・ 最近のものから通し番号を付して記述する。
- ・ 主な業績については、それぞれ、その内容と火山学的な位置づけを250字以内で解説すること。

本人の承諾書

- ・ 他薦の場合は、被推薦者本人（あるいは被推薦団体代表者）が電子メールで事務局に直接送信のこと。自薦の場合は不要。
- ・ 研究奨励賞においては、本人の研究活動に関して火山学における位置づけについて自らの見解（500字以内）を必ず記述すること。

2. 参考資料

- ・ 選考のために参考となる客観的資料があれば1部ずつ添えること。

- ・ 一般雑誌の論文別刷りは不要。
- ・ 提出書類は要求がない限り返却しない。

推薦書提出先

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9

モンテベルデ第2 東大前 406 号 日本火山学会事務局

電話/FAX 03-3813-7421

e-mail : kazan@khaki.plala.or.jp

問い合わせ先

各賞選考委員長 篠原宏志（産業技術総合研究所）

Tel : 029-861-3912, Fax : 029-861-3526

e-mail : shinohara-h@aist.go.jp

選考委員（各賞選考委員会）

小屋口剛博、熊谷博之、篠原宏志、高橋正樹、津久井雅志、西村太志、橋本武志、安田敦

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月16日送信しました）

○火山学会理事選挙立候補受付

火山学会会員各位 平成24年1月23日

特定非営利活動法人 日本火山学会

選挙管理委員会委員長 津久井雅志

特定非営利活動法人日本火山学会理事選挙立候補受付のお知らせ

日本火山学会の現役員の任期が平成24年6月末をもって満了となりますので、本学会役員（理事）の選挙を行います。次期の理事会が対応しなければならない国内外の様々な任務を考慮し、現理事会では次期理事の定員を14名以内とすることにしました。

つきましては、下記の要領にしたがって理事候補者の受付を行います。立候補は、自薦他薦を問いませんが、候補者（被選挙人）は維持会員に限られます。

記

1. 被選挙人：維持会員（日本火山学会会員名簿参照）

日本火山学会理事選挙規程第3条により、被選挙人の資格は、維持会員に限られます。ただし、学会定款第16条により、再任を妨げません。

2. 立候補：立候補は自薦他薦を問いません。立候補者または推薦者は、候補者および本会会員3名からなる推薦者の署名と印のある立候補（推薦）届出書を期限までに選挙管理委員会（下記送付先）に提出してください。立候補（推薦）届出書の様式は以下のサイトからダウンロードできます。

MS-WORD形式：

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/doc/2012senkyo.doc>

PDF形式：

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/doc/2012senkyo.pdf>

3. 立候補（推薦）締切：平成 24 年 2 月 29 日（水） 17 時必着

4. 立候補（推薦）届出書送付先：
〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9
モンテベルデ第 2 東大前 406 号
特定非営利活動法人 日本火山学会選挙管理委員会
詳しくは火山学会ホームページをご覧ください。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 23 日送信しました）

○訃報のお知らせ

本会名誉会員 小坂文予様（享年 86 歳）が、去る 11 月 23 日にご逝去されました。

慎んでお悔やみ申し上げます。

なお、葬儀は仏式で下記のとおり執り行われます。

・通夜式

平成 23 年 11 月 29 日（火） 18 時 00 分～

・葬儀・告別式

平成 23 年 11 月 30 日（水） 9 時 30 分～11 時 00 分

・喪主 小坂信尋様

・式場 桐ヶ谷斎場 鶴の間

・住所 品川区西五反田 5-32-20（東急目黒線 不動前駅下車 徒歩 7 分）

・電話番号 03-3491-0213

・葬儀委員長 野上 健治

・葬儀副委員長 木川田 喜一

※生花等のお問い合わせは、こちらにお願いいたします。

大成祭典株式会社 東京葬祭センター

TEL：03-3490-3511

品川区西五反田 5-30-13 FAX：03-3490-1470

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 25 日送信しました）